慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	編集後記 奥付
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1948
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.41, No.10 (1948. 10)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19481001-0065

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ーデンの場合には其處に今一つの要因を想像する事が出來るのではあるまいか。彼の時代は正に英國産業革命がその本來の姿を現出する直前であつたと云つても過言ではあるまい。大英帝國の世界制覇は正に成らんとして未だ成らず、而も舊き救貧法は最早國内問題を解決す可くあまりに無力なる事が認められる。此の舊き社會制度とその政策に對する不信こそは、新なる問題解決の鍵を大衆生活の現場に探らんとする此の迂遠にして勞多き路を人に選ばしめるものであらう。未だ資本主義社會の本質的諸害惡を見る事無く、來る可き時代を殆んど無條件に樂觀せるアダム・スミスと、慈惠的經營社會政策の實行者より終に社會主義的勞働者運動に走らざるを得なかつたロバート・オウエンとの此の中間に、吾々はイーデンの歴史的位置を見出すのである。彼は窮極の問題解決を勞働貧民の自律的向上に求めるけれども、夫は既にスミスの如き樂觀的な自由放任論とは異つて居る。而も彼は未だ問題の解決を政治的手段に依る何等かの社會改革に求めようとはしない。救貧法の誤てる制約を除去するならば、勞働者各人の生活態度の改善さへ望まれるなら充分現狀を打開するに足る收入を彼等に與へる丈の産業の發達は既に爲されて居ると云ふイーデンの論旨は、エンゲルの「ベルギー勞働者家族の生活費」に於ける夫とも一脈相通ずるものがあらう。一九世紀末から二〇世紀初頭へかけて三度顯著となる生活研究の興隆に於ても、吾々は屢々以上の諸動機と極めて類似する所のものを見出すのである。

（終）

前號（第四十一卷九月號）目次

論文

英國經濟の地域的構造……小島榮次

わが社會保障制度と生活保障體制（下）……藤村敬三

資料

生糸恐慌と製糸業勞働者の勞働條件（下）…金子八郎

書評

藤井茂著「國際貿易論」……白石孝

編輯後記

○いわゆる「近代經濟學」とマルクス經濟學との「握手」が、「封建論爭」の再燃とならんで、最近の學界の、また論壇の一つの課題となつている。それの擔つている現實的意義は一應どうあろうとも、「握手しよう」とする、あるいはこの兩者を「握手させよう」とする「試み」は、その究極においては、當然、それぞれの「價値論」において問題をとらえねばならなかつたし、またそうすることをよぎなくされることになるであろう。たとえそれがいかなる誤解のうえに――一方からのある双方からの――なされようとも、それぞれの「體系」はそれぞれの「價値論」のうえにそれぞれの「經濟像」を畫き出している筈だからである。もちろん、ここでは「價値論」という言葉は、單に價値のあるいは價格の「規定」（Bestimmung）を意味するものとして用いられているのではないことは、改めて斷わるまでもないであろう。

○いづれにせよ、最近の「價値論」への關心の昂まりは、このようないわゆる「近代經濟學」とマルクス經濟學との「握手」――それがいづれの側から提起されているにせよ――およびその背後にある現實の課題、ならびに、最近のソヴェート學界における價値論爭の意義等々をも含めて、國際的な擴がりをもつているのである。それはもはや單なる思辨的な「興味」にもとづくものではない。本號において「價値論」を特輯としてとりあげたのは、右のような問題意識からにほかならない。

○執筆者諸氏の、いろいろの角度からとりあげられた「價値論」についてのこれらの諸論稿が、問題の一層の發展に資することを庶幾うものである。

昭和二十三年九月二十五日印刷
昭和二十三年十月一日發行
第四十一卷第十號

禁轉載

本號定價金四拾圓
送料四圓

編輯兼發行者　東京都港區芝三田慶大經濟學部内　高村象平
印刷者　東京都港區芝三田豐岡町八　川口芳太郎
印刷所　東京都港區芝三田豐岡町八　図書印刷株式会社

豫約購讀料一年分　金五五〇圓（送料共）
半ヶ年　金二八〇圓（〃）

○豫約購讀料は發賣所宛お拂込み下さい。
○誌代變更の場合は精算決濟致します。
○編輯に關する用件は發行所へ。
○營業に關する用件、購讀申込は發賣所へ願ひます。

發行所　東京都港區芝三田二丁目慶應義塾大學經濟學部研究室内　慶應義塾經濟學會
發賣所　東京都港區芝三田二ノ一　慶應出版社　日本出版協會員B一一一〇一六　日本出版協會員A一一一〇一九